

高校時の「特別活動等」がコンピテンシー向上 に及ぼす影響に関する一考察

**A Study of the Influence that “the Extracurricular Activities” of
the High School Student Period Have on Competency Improvement**

高瀬 博 HIROSHI TAKASE

長島 康雄 YASUO NAGASHIMA

久永 哲雄 TETSUO HISANAGA

Abstract

We believe “the extracurricular activities” of the high school student period help competency improvement.

We conducted a questionnaire investigation of “the influence that the extracurricular activities of the high school student period have on competency improvement” with 460 people.

1. “Volunteer activity” made most contribution to competency improvement most. The second was “Club activities”.
2. The competency that improved most was “Interchange with the persons, co-operation with the persons”, in the all extracurricular activities. The second was “independence of will, aggressiveness”.
3. A combination of activity and competency having the highest degree of contribution was “interchange with the persons and co-operation with the persons” of "club activities". The second was “Interchange with the persons and co-operation with the persons” of “the volunteer activity”.
4. The combination of activity and competency having the lowest degree contribution is “Interchange with the persons and co-operation with the persons” of “the homeroom activity”. The second was “Work value interest in society” of “the volunteer activity”.
5. The extracurricular activities that most people think to have participated positively during the high school student period were “Club activities”. The second was “School excursion”.
6. The school event that most people had a good impression of during the high school student period was “School excursion”. The second was “Cultural festival”.

(目次)

- I. はじめに
- II. 特別活動とコンピテンシー
- III. 研究方法
- IV. 結果の吟味と考察
- V. まとめ
- VI. 参考文献

I. はじめに

平成 21 年 3 月告示の高等学校学習指導要領では、「特別活動」の目標を次のように示している。

「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」¹⁾

このように高校生は在学時の「特別活動及び部活動・ボランティア活動(以下特別活動等)」の体験により、学力以外の様々な能力を向上させることが求められている。ここに掲げられている能力は、関東学園大学が「地域社会で活躍できる人材育成」を達成するため、平成 16 年度より全学的に導入されている「社会対応力を伸ばすコンピテンシー教育プログラム」の内容と合致している。

筆者はこれまで、原著論文「中学・高校時における特別活動(主に学校行事)に対する大学生の意識について」2007 年²⁾では各「学校行事」に対する好感度・必要度を中心に、原著論文「学校教育における特別活動の意義に関する一考察」2012 年³⁾では「特別活動」で身に付いた能力を中心に、特別活動が生徒の成長にどのような影響を及ぼしてきたかについて研究を行ってきた。そこで本報で、高校時の「特別活動等」の体験に対する評価を、関東学園大学が導入している「コンピテンシー向上プログラム」の観点から考察したいと考え、大学生、高校生、現職教員を対象としてアンケート調査を行った。「コンピテンシー」とは、企業において、高い業績を上げている者の行動の特性・能力である。⁴⁾

II. 特別活動とコンピテンシー

1. 特別活動とは

1) 新学習指導要領における特別活動の内容は、下記の通りである。

第5章特別活動 第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔ホームルーム活動〕

〔生徒会活動〕

〔学校行事〕

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊的行事

一方、部活動とボランティア活動についてはこれまで特別活動の内容として扱われてきたが、平成 11 年の改定以来「特別活動」には含まれていない。現在では、下記の通り重要な教育活動として扱われている。

〔部活動〕

これまで特別活動に含まれていたが、平成 11 年の改訂より「学校教育活動」と示された。最新の学習指導要領(平成 27 年)では「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。」と示された。

〔ボランティア活動〕

「学校教育及び社会教育における体験活動の促進について(通知)」(文科初第 597 号平成 13 年 9 月 14 日)において、下記のように、その重要性を示している。

学校教育法を改正し、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校について、各学校種の教育目標の達成に資するよう、教育指導を行うに当たり、児童生徒の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとするとともに、社会教育関係団体その他の関係団体及び関係機関との連携に十分配慮しなければならないとしたこと。

これまでの経緯、目的などから、本研究では、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、部活動、ボランティア活動を合わせて「特別活動等」として、コンピテンシー向上貢献度との関連を調査研究した。

2. コンピテンシーとは

1) コンピテンシーの起源

アメリカの人事評価の考え方で「成果を生む望ましい行動特性」を指す。米国防総省(ペンタゴン)が組織のチーム編成をする際に採用し、90 年代半ばから企業に広まった。部署やポストごとに成績優秀な社員の行動を分析し、その特性を明らかにし、人事評価、採用などの基準とする手法。実績や成果などの数値にとらわれず、人材が持つ潜在能力を評価する基準として利用される。日本企業ではコンピテンシーを利用して職能資格制度の再設計に乗り出す企業も出てきた。²⁾

2) 関東学園大学のコンピテンシー教育

関東学園大学では、「地域社会で活躍できる人材育成」を教育目標としている。この教育目標を達成するため、特に力を入れている教育・支援の中で、平成 16 年度より全学的に導入されているのが、「社会対応力を伸ばすコンピテンシー育成プログラム」である。コンピテンシーを導入し、成果を上げるためには、「コンピテンシー・ディクショナリー」を作成し、利用する(企業・大学)の実情に沿ったものでなければならない。³⁾ そこで関東学園大学では、次の 6 つの能力を向上させることを目的とした。

- | | |
|--------------|----------------|
| (1) 表現力 | (4) 職業観・社会への関心 |
| (2) 人との交流・協業 | (5) 論理的思考力 |
| (3) 主体性・積極性 | (6) リーダーシップ |

これらの能力を向上させるための、コンピテンシーポイント獲得のためのプログラムとして、部活動への参加、学内行事(学園祭、ディベート大会、プロジェクト学習発表会等)への参加、学外イベントへの支援(太田スポレク祭、太田 100 キロ徒歩の旅等)などを認定しており、これらの活動は、高校時の特別活動等に相当している。

Ⅲ. 研究方法

1. 調査対象

高校生 148 名、大学生 185 名、教員 127 名の合計 460 名。詳細を表 1 に示した。

表1 アンケート調査対象者一覧					表2 回答の得点化	
	高校生	大学生	教員	計	選択肢	得点
男	75	125	48	248	とても思う	3
女	73	60	79	212	やや思う	2
計	148	185	127	460	あまり思わない	1
					全く思わない	0

2. 調査方法と期間

2016年7月及び8月にアンケート調査を実施した。高校生・大学生に対しては担任教員に依頼し、授業中に行った。現職教員に対しては、教員免許更新講習に訪れた教員を中心に行った。(回収率100%) 結果の集計・分析には、Windows Excelを用いた。

アンケート調査項目は、下記の通りである。

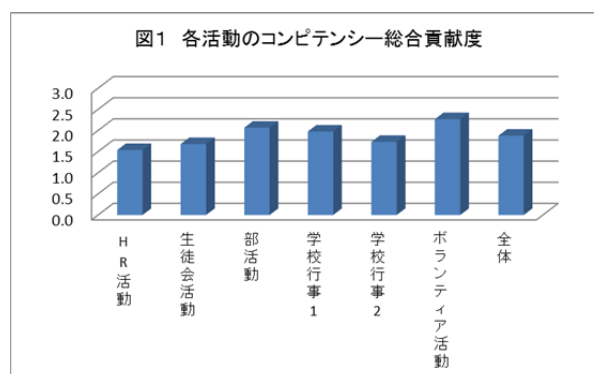
- (1) 性別・属性・部活動経験・生徒会役員等経験
- (2) HR活動、生徒会活動、部活動、学校行事1(学内行事)、学校行事2(旅行的行事)
ボランティア活動それぞれの体験が、「表現力」「人との交流・協業」「主体性・積極性」「職業観・社会への関心」「論理的思考力」「リーダーシップ」の各コンピテンシー育成にどの程度役立ったのかを、「とても思う」「やや思う」「あまり思わない」「まったく思わない」の4段階で評価した。
- (3) 高校時に積極的に参加した特別活動等
- (4) 学校行事の中で最も印象に残っている行事

アンケート調査の結果を比較し考察しやすくするため、表2のように回答を得点化し、「貢献度」の語を用いることとした。

IV. 結果の吟味と考察

1. 各活動別の貢献度(総合点から)

ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、学校行事1(学内行事)、学校行事2(旅行的行事)、ボランティア活動の各活動が、コンピテンシー向上にどの程度寄与したと考えているか(以下、貢献度)を考察した。各活動の総合点の平均(3点満点)を図1に示した。「ボランティア活動」が2.27と最も高く、次いで「部活動」2.06、「学校行事1(学内行事)」1.97、「学校行事2(旅行的行事)」1.73、「生徒会活動」1.68、「ホームルーム活動」1.71の順であった。このように「ボランティア活動」「部活動」がコンピテンシー向上に貢献したと考えていることが明らかとなった。反対に「生徒会活動」「ホ

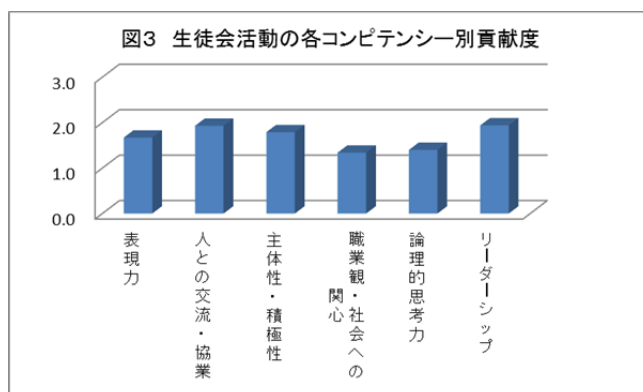
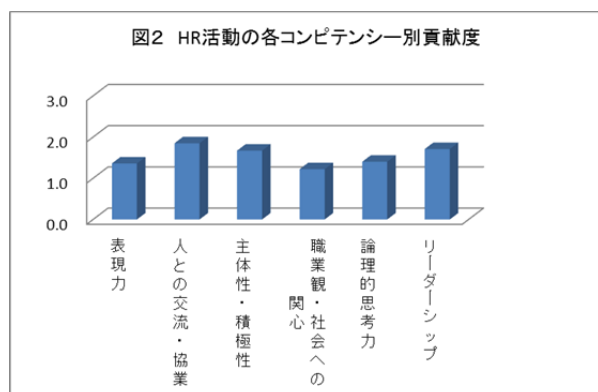


「ホームルーム活動」についてはコンピテンシー向上にあまり貢献していないと考えられており、2極化していることが示唆された。特別活動等全体としては1.87で「やや思う」2.00をやや下回った。

2. 各活動におけるコンピテンシー向上貢献度

1) ホームルーム活動

ホームルーム活動に対するコンピテンシー向上貢献度を図2に示した。「人との交流・協業」が1.85と最も高く、次いで「リーダーシップ」1.71、「主体性・積極性」1.67、「論理的思考力」1.40、「表現力」1.36、「職業観・社会への関心」1.22の順であった。すべての評価が「全体平均1.87」を下回り、活動としては全般的に貢献度が低かった。

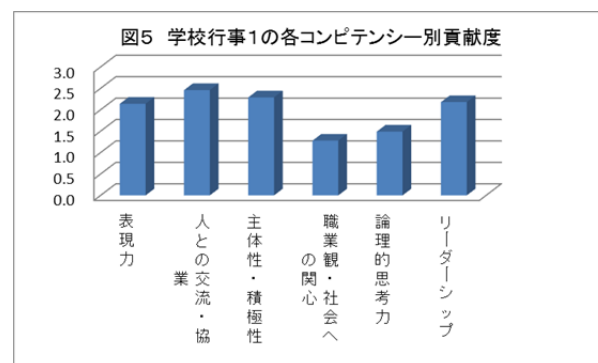
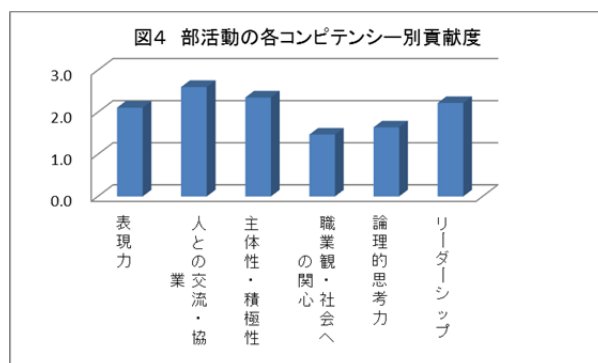


2) 生徒会活動

生徒会活動に対する各コンピテンシー向上貢献度を図3に示した。「リーダーシップ」が1.94と最も高く、次いで「人との交流・協業」1.93、「主体性・積極性」1.79、「表現力」1.67、「論理的思考力」1.40、「職業観・社会への関心」1.34の順であった。全体として貢献度は高くなく、特に「論理的思考力」、「職業観・社会への関心」が低かった。

3) 部活動

部活動に対する各コンピテンシー向上貢献度を図4に示した。「人との交流・協業」が2.60と最も高く、次いで「主体性・積極性」2.35、「リーダーシップ」2.22、「表現力」2.11、「論理的思考力」1.64、「職業観・社会への関心」1.47の順であった。「部活動」は、「論理的思考力」、「職業観・社会への関心」を除いて、コンピテンシー向上に大きく貢献しているといえる。

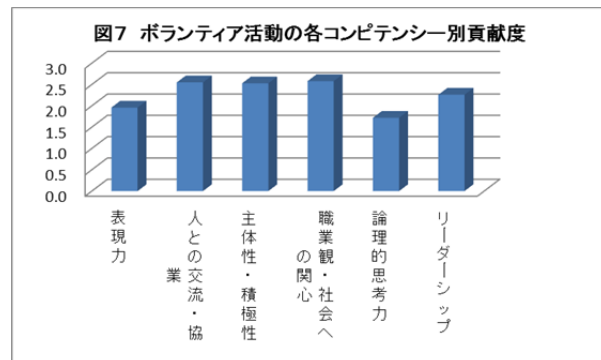
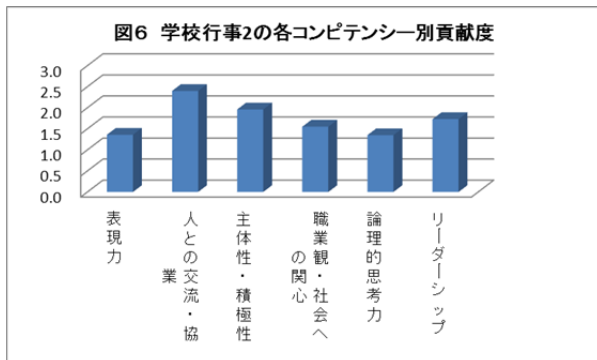


4) 学校行事1(校内行事)

学校行事1(校内行事)は、体育祭・文化祭・卒業式等である。これらに対する各コンピテンシー貢献度を図5に示した。「人との交流・協業」が2.46と最も高く、次いで「主体性・積極性」2.29、「リーダーシップ」2.18、「表現力」2.14、「論理的思考力」1.49、「職業観・社会への関心」1.28の順であった。学校行事1(校内行事)については「部活動」と全く同じ傾向を示し、コンピテンシー向上に貢献していることが示唆された。

5) 学校行事2(旅行的行事)

学校行事2(校内行事)は、修学旅行・遠足等である。これらに対する各コンピテンシー貢献度を図6に示した。「人との交流・協業」が2.40と最も高く、次いで「主体性・積極性」1.96、「リーダーシップ」1.73、「職業観・社会への関心」1.55、「表現力」1.36、「論理的思考力」1.35の順であった。学校行事2(校内行事)では、「人との交流・協業」が大きく向上することが示唆された。



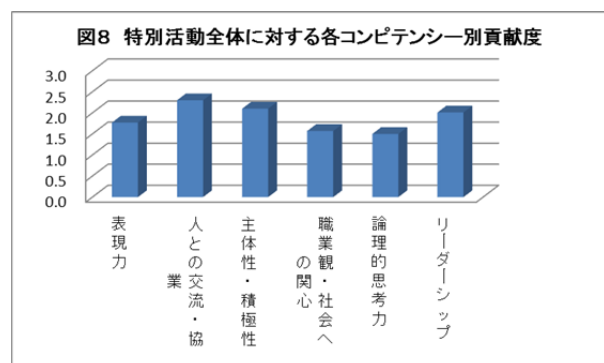
6) ボランティア活動

ボランティア活動に対する各コンピテンシー向上貢献度を図7に示した。「職業観・社会への関心」2.58と最も高く、次いで「人との交流・協業」が2.55、「主体性・積極性」2.53、「リーダーシップ」2.26、「表現力」1.96、「論理的思考力」1.72の順であった。ボランティア活動に対するコンピテンシー向上貢献度は全体的に他の活動に比べて高く、「職業観・社会への関心」、「人との交流・協業」、「主体性・積極性」が特に高かった。

3. 特別活動全体に対する各コンピテンシーの評価(総合点)

「表現力」「人との交流・協業」「主体性・積極性」「職業観・社会への関心」「論理的思考力」「リーダーシップ」の各コンピテンシーが全活動を通して、どの程度向上したかを比較したのが図8である。

「人との交流・協業」が2.30と最も高く、次いで「主体性・積極性」2.10、「リーダーシップ」2.01、「表現力」1.77、「職業観・社会への関心」1.57、「論理的思考力」1.50の順であり、2極化している。著者の過去の研究結果においても、「特別活動で身に付いたと思う能力」として、「チームワーク力」「コミュニケーション」

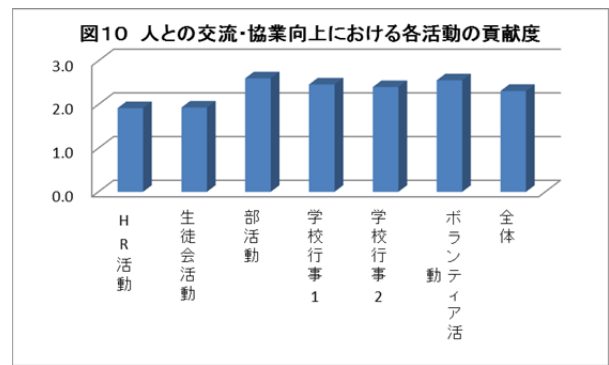
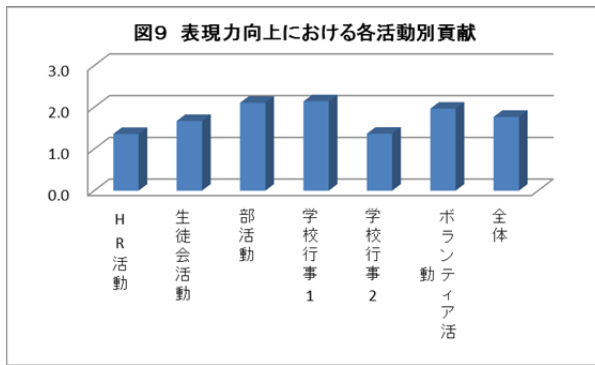


「主体性・行動力」が上位であり、本研究結果もほぼ同じ結果であった。⁴⁾

3. 各コンピテンシーにおける活動の評価

1) 「表現力」

「表現力」向上に貢献する活動を比較し図9に示した。「学校行事1(校内行事)」が2.14と最も高く、次いで「部活動」2.11「ボランティア活動」1.96、「生徒会活動」1.67、「学校行事2(旅行的行事)」1.36「ホームルーム活動 1.36 の順であった。このように「表現力」向上については「学校行事1(校内行事)」「部活動」「ボランティア活動」において、顕著であった。

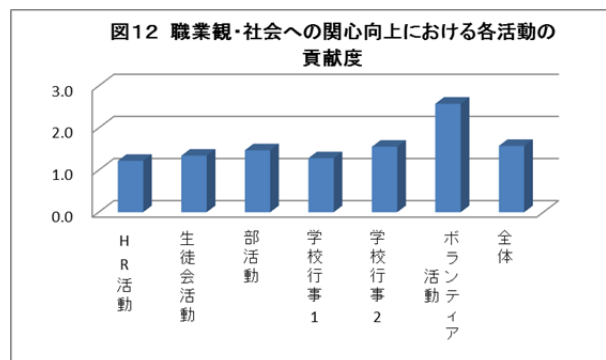
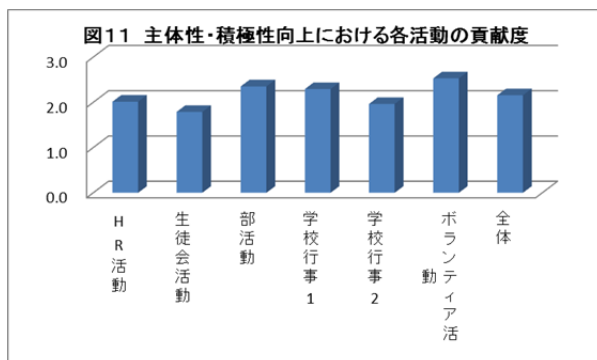


2) 「人との交流・協業」

「人との交流・協業」についての各活動の貢献度を比較し図10に示した。「部活動」が 2.60と最も高く、次いで、「ボランティア活動」2.55、「学校行事1(校内行事)」2.46、「学校行事2(旅行的行事)」2.40、「生徒会活動」1.93、「ホームルーム活動 1.85 の順であった。このように多くの活動が「人との交流・協業」向上に貢献していると考えられていることが示唆された。

3) 「主体性・積極性」

「主体性・積極性」についての各活動の貢献度を比較し図11に示した。「ボランティア活動」2.53 と最も高く、次いで「部活動」2.35、「学校行事1(校内行事)」2.29、「学校行事2(旅行的行事)」1.96、「生徒会活動」1.79、「ホームルーム活動 1.67 の順であった。このように「生徒会活動」「ホームルーム活動」を除く特別活動等が、「主体性・積極性」の向上に貢献していることが示唆された。

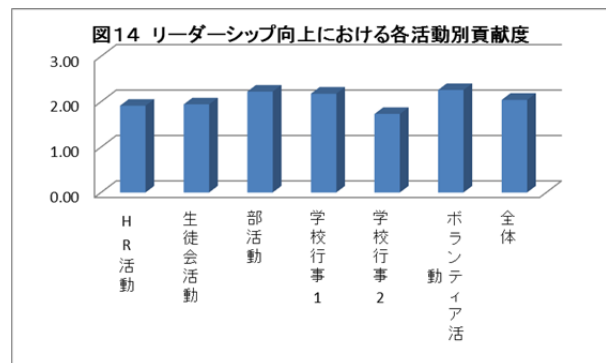
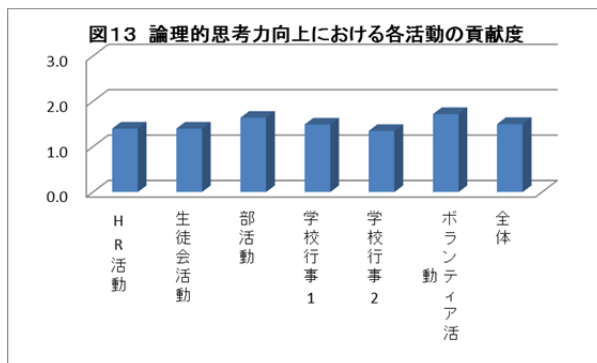


4)「職業観・社会への関心」

「職業観・社会への関心」についての各活動の貢献度を比較し図12に示した。「ボランティア活動」が2.58と最も高く、次いで「学校行事2(旅行的行事)」1.55、「部活動」1.47、「生徒会活動」1.34「学校行事1(校内行事)」1.28、「ホームルーム活動」1.22の順であった。「職業観・社会への関心」についての各活動の貢献度は「ボランティア活動」が突出して高く、校外におけるボランティア体験が職業観・社会への関心に繋がっていることが示唆された。

5)「論理的思考力」についての各活動の貢献度

「論理的思考力」についての各活動の貢献度を比較し図13に示した。「ボランティア活動」が1.72と最も高く、次いで「部活動」1.64、「学校行事1(校内行事)」1.49、「生徒会活動」1.40、「ホームルーム活動」1.40、「学校行事2(旅行的行事)」1.35の順であった。「論理的思考力」についての各活動の貢献度は全体的に低かった。



6)「リーダーシップ」

「リーダーシップ」についての各活動の貢献度を比較し図14に示した。「ボランティア活動」2.26と最も高く、次いで「部活動」2.22、「学校行事1(校内行事)」2.18、「生徒会活動」1.94、「学校行事2(旅行的行事)」1.73、「ホームルーム活動」1.71の順であった。このように「ボランティア活動」「部活動」「学校行事1(校内行事)」「生徒会活動」においては「リーダー」の役割が重要であると考えられていることが考察された。

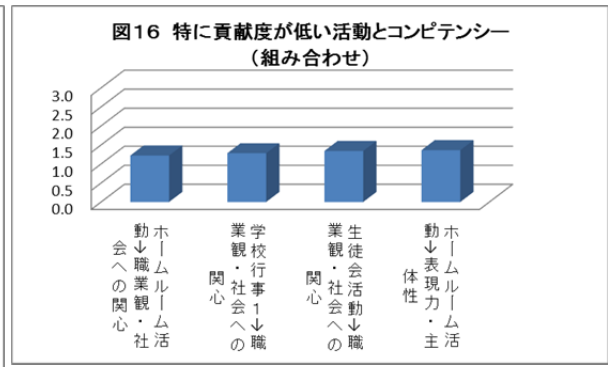
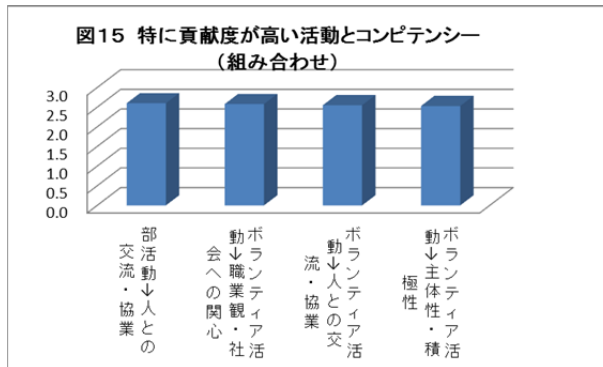
4. 特に貢献度が高いと評価された活動とコンピテンシー

図15に、特に貢献度が高いと評価された活動とコンピテンシーの組み合わせを示した。最も高かったのは、「部活動」と「人との交流・協業」2.60である。次いで「ボランティア活動」と「職業観・社会への関心」2.58、「ボランティア活動」と「人との交流・協業」2.55、「ボランティア活動」の「主体性・積極性」2.53である。このように貢献する活動は、「部活動」「ボランティア活動」における「人との交流・協業」「主体性・積極性」の組み合わせであり、「特別活動等」のコンピテンシー向上貢献度を明確に示している。

5. 特に貢献度が低いと評価された活動とコンピテンシー

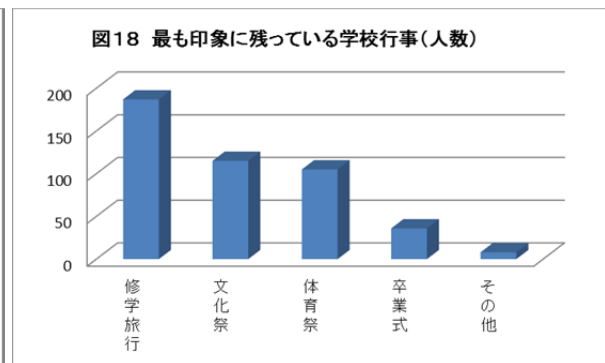
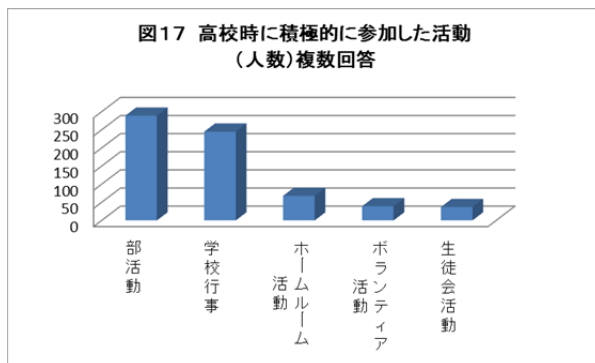
反対に、特に貢献度が低いと評価された活動とコンピテンシーの組み合わせを図16に示した。最も低かったのは、「ホームルーム活動」と「職業観・社会への関心」1.22である。次いで「学校行事1(校内行事)」と「職業観・社会への関心」1.28、「生徒会活動」と「職業観・社会への関心」1.34、「ホームルーム活動」と「表現力・主体性」1.36である。これらについては活動

の性格上やむを得ない面もあるが、計画・実践に工夫の余地が必要と思われる。



6. 高校時に積極的に参加したと考えている活動

高校時に積極的に参加したと考えている特別活動等を図17に示した(複数回答)。最も多かったのは「部活動」の289名、次いで「学校行事」245名、「ホームルーム活動」68名、「ボランティア活動」39名、「生徒会活動」39名である。筆者の過去の研究結果と一致している。⁴⁾



7. 高校時の学校行事で最も印象に残っている行事

高校時の学校行事で最も印象に残っている行事は、「修学旅行」187名、次いで「文化祭」115名、「体育祭」104名、「卒業式」36名、その他8名の順である。筆者の過去の調査結果でも、「学校生活の思い出」では「修学旅行」「体育祭」「文化祭」の順であり、ほぼ一致した。³⁾

V. まとめ

1. コンピテンシー向上に最も貢献したと考えている活動は、「ボランティア活動」であり、次いで「部活動」、「学校行事(校内行事)」である。
2. 特別活動等全体において、最も向上したコンピテンシーは、「人との交流・協業」であり、次いで「主体性・積極性」、「リーダーシップ」の順である。
3. 特に貢献度の高い活動とコンピテンシーの組み合わせは「部活動」の「人との交流・協業」であり、次いで「ボランティア活動」の「職業観・社会への関心」、「ボランティア活動」の「人との交流・協業」の順である。
4. 特に貢献度の低い活動とコンピテンシーの組み合わせは、「ホームルーム活動」と「職業観・社会への関心」であり、次いで「学校行事1(校内行事)」と「職業観・社会への関心」、「生徒会活動」と「職業観・社会への関心」の順である。

5. 高校時に積極的に参加したと考えている特別活動等は「部活動」、次いで「学校行事」、「ホームルーム活動」である。
6. 高校時の学校行事で最も印象に残っている行事は、「修学旅行」、次いで「文化祭」、「体育祭」、である。

このように、特別活動及び部活動、ボランティア活動などの教科外活動が、現在「就職力」「社会適応力」として注目されている「コンピテンシー」向上に、どの程度貢献しているかを調査し、結果を吟味し考察を行った結果、上記のように「特別活動等」はそれぞれの活動により各コンピテンシー向上に貢献しており、活動の性格・特徴により、向上するコンピテンシーとその程度(貢献度)が異なることが明らかとなった。

本報では、調査対象者 460 名の全体的傾向を探ることに留まった。今後は、性差、年齢差(属性)、部活動経験の有無、生徒会リーダー経験の有無等について比較を行いたいと考えている。

VI. 参考文献

- 1) 高等学校学習指導要領.文部科学省.353-56.2009.
- 2) コンピテンシー・マネジメントの展開(導入・構築・活用).ライル.スペンサー他.生産性出版.3-12.2001.
- 3) 高瀬 博「中学・高校時における特別活動(主に学校行事)に対する大学生の意識について」関東学園大学紀要 Liberal Arts 第 15 集. 1-16.2007
- 4) 高瀬 博「学校教育における特別活動の意義に関する一考察」関東学園大学紀要 Liberal Arts 第 20 集. 1-14.2012.
- 5) コンピテンシー戦略の導入と実践.遠藤 仁.かんき出版.36-43.2000.